

イルカ通信

小笠原ホエールウォッチング協会 (OWA)

2009年10月1日 No. 032

隔月1回発行
バックナンバーは無料でダウンロードできます
(下記参照)

「ワンスター登場」

フォースターと名付けられたメスのミナミハンドウイルカ。身体に付いた大きな四つの白斑が特徴です。イルカ調査隊にとってもお馴染みの個体で、調査隊のトレードマークになっているだけでなくOWA所有船の名前にもなっています。

6月29日、兄島瀬戸は長崎付近で星形の傷跡を持つ個体「#258番」が確認されました。写真を見ても分かるように傷跡は一つだけ。フォースターではありません。調査では初めて確認された個体です。名前を付けるとしたら「ワンスター」とでも言ったところでしょうか。何故このような傷跡になったのでしょうか？今までの調査で見逃していた個体でしょうか？普段は父島列島周辺にはいない個体でしょうか？疑問は尽きませんが残念なことにハッキリしたことは分かりません。目撃情報が積み重なれば、これらの疑問は解決していくかもしれません。

今後も様々な特徴のイルカ達が目撃されるでしょう。もしかしたら、ツースターやスリースターが現れるかも。特徴的なイルカを目撃したら是非OWAまでご一報下さい。

「折れ曲がっても大丈夫」

ミナミハンドウイルカ「#176番」。主に嫁島周辺で目撃されている個体で、上の吻(以下:口)が大きく折れ曲がっているのが特徴です。イルカ調査隊では2006年6月に初めて目撃されました。折れ曲がった口では餌を捕りづらそうですが大丈夫なのでしょうか？

人間が何かを食べる時、まずは手や箸を使って口に物を運びます。そして歯で噛み砕いてから胃に流しこみます。一方、ミナミハンドウイルカなど一部のハクジラ類は、胸ビレや箸を器用に使って口に魚やイカを運び、ポリポリと噛み砕いてからゴクリと飲みこみます。…というのは冗談で、一説によれば、餌を捕まえる際、口の中に吸いこむとも考えられています。その後、噛み砕かずに丸飲みします。

「#176番」の口は多少折れ曲がってはいますが、ここ3年間衰弱している様子は観察されていないので、吸い込んだ餌を逃がさない役割は十分に果たしているのかもしれませんが。今後も、今と変わらず元気な姿を見せてくれることに期待しましょう。

参考図書①「鯨類学 東海大学出版会p122-128」

参考図書②「クジラとイルカ 海も地球も大研究 債成社 p18-19」



#258番：左目の上の★形の傷が目印！



#176番：調査隊では「ブッチュ」と呼んでいます。

イルカのこともっと知りたい! その4



産まれて間もないイルカの母には、胎児顔と呼ばれる顔が顔にあります。

こどもの誕生は～?

子イルカが産まれてくる時は?

Q・①頭から産まれる ②尾ビレから産まれる



A・②尾ビレから産まれる

約12ヶ月で子イルカは生まれます。イルカたち鯨類は尾びれから産まれます。人間でいえば逆子の状態ですね。そして産まれてすぐに空気を吸うために海面へと泳ぎます。

小笠原ホエールウォッチング協会

〒100-2101 東京都小笠原村父島字東町 Tel 04998-2-3215 e-mail owa@h6.dion.ne.jp

URL <http://www.ogasawara.or.jp/owa>

イルカ通信はOWAのホームページ (<http://www.ogasawara.or.jp/owa>) もしくは <http://www.h2.dion.ne.jp/~owa/rukatsushin/rukatsushin.html> からダウンロードできます (無料)